

# ～TANKYU～

谷地南部小学校  
校内研究だより  
2023. 5. 8  
No.8 文責 荒木秀

## 山田先生に学ぶ

伊藤先生が、前号で先生方の素敵なおところを紹介してくれました。いいですね。伊藤先生は授業を見せてもらった先生から学び、授業を見てもらった先生は伊藤先生の「TANKYU」から学び（ふり返り）、他の先生も「こんな風にやっているんだ。」と学ぶことができる。素敵です。ぜひ、他の先生方もお互いに授業を見たり見られたりしてみてください。きっと、たくさんの学びがあるはずです。私の理想は、子どもたち同士もお互いに授業参観できたらいいなあと思っています。

話は変わって、先週1年生と6年生で図工の交流学习を行いました。「ペットボール」（心寧ちゃん命名。右写真→）作りを一緒に行いました。作業は難しくないのに、和気あいあいとしながら全員作ることができました。（おススメです。6年生教えに行きますよ。）



出来上がった子どもたちから、ペアになってグラウンドで早速投げてみます。投げるのはちょっとだけコツがいります。しっかりとした投球フォームにならないと、うまくは飛びません。6年生がお手本を示し、悪戦苦闘しながらも徐々に成功する1年生。中には、6年生以上に遠くまで飛ばす子も。

そのときです。山田先生がすかさず、その子に「どうやったら、そんなに遠くまで飛ぶの？コツは？」と声をかけました。その子はうれしそうに、一生懸命山田先生に話をします。また別の子が、うまく飛ばせず、「ああ、今のだめだ。」と言うと、また山田先生は、「どこが、うまくいかなかったの？」と声をかけます。声をかけられた子は、言葉につまりながらも、なぜうまくいかなかったのかを考えていました。自分の姿を「ふり返って」います。

研究全体会の場で、「ふり返り」までしっかりしましよと声を掛けさせていただきました。とは言いながら、「どのようにふり返らせるか」私自身悩んでいるところです。形ばかりのふり返りでは意味がないので。そんなときに出会った山田先生の姿は、自然な形で子どもたちに「ふり返り」の場を与えていました。まだ上手に文字を書けない1年生だからこそ、このように対話を通して「ふり返らせる」ことは大事なのだと痛感しました。山田先生、背中を示していただきありがとうございます。がんばって追いかけます。